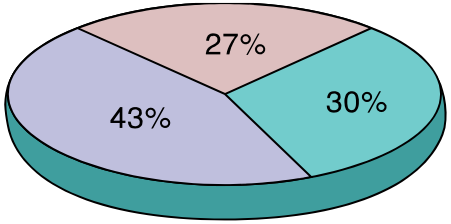
平成２４年度食の安全安心リスクコミュニケーション（第７回）

牛海綿状脳症（ＢＳＥ）について考えるシンポジウム　【開催状況報告】



25.2.7 県民くらしの安全課

目　　的

　ＢＳＥ検査の対象月齢引上げ等の食品健康影響評価に関する食品安全委員会の答申を受け、国は管理措置の見直しを行います。

　このことから、ＢＳＥ問題及びその食品健康影響について県民の皆様に理解を深めていただくとともに、今後の取組を一緒に考えていくため、消費者、生産者、流通業者等による意見交換等を行ったものです。

開催概要

- 日時・会場　2月2日（土） 13:30～16:30 ホテルメトロポリタン盛岡
- 参加者　約130名
- 基調講演 「今後のBSE対策について」

  独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構

  動物衛生研究所プリオン病研究センター　横山 隆
- 報告 「BSE対策の見直しについて」

  厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課乳肉安全係長 温井健司氏
- パネルディスカッション「BSEについて考える」

コーディネーター 岩手大学教授 村上賢二 氏

パネリスト　岩手県消費者団体連絡協議会 事務局長 伊藤慶子氏

岩手県農協肉牛経営者連絡協議会会長 千葉幹雄氏

株式会社岩手畜産流通センター商品部長 佐藤勝宏氏

県民くらしの安全課食の安全安心課長 岩井賀寿彦

アドバイザー　横山 隆氏　温井健司氏

【基調講演】

　BSEに関する基本知識及び今後のBSE対策における課題等について講演が行われました。

【厚生労働省報告】

　食品安全委員会の答申から国における対策の見直しに至る経緯、今回の見直しの内容、今後のスケジュール等について報告が行われました。

【パネルディスカッション】

基調講演、厚労省報告を踏まえ、「BSEについて考える」をテーマに、消費者、生産者、流通業者、行政の各立場から、BSE対策に関する考えや取組について、意見が交わされました。（主な発言要旨は次のとおり）

◆消団連　伊藤氏（消費者）

BSEにはまだ不確かな部分が多く、アメリカのリスク管理も非常に不透明な部分が多い。全頭検査は継続し、時間をかけて議論をしていく必要。

◆牛経連　千葉氏（生産者）

放射能の風評被害で国産牛肉の消費が減っている中、BSE対策の見直しは、生産者経営への影響が強く懸念される。消費者が望む安全安心に対応していく必要があり、全頭検査の継続を求めたい。

◆岩畜　佐藤氏（流通業者）

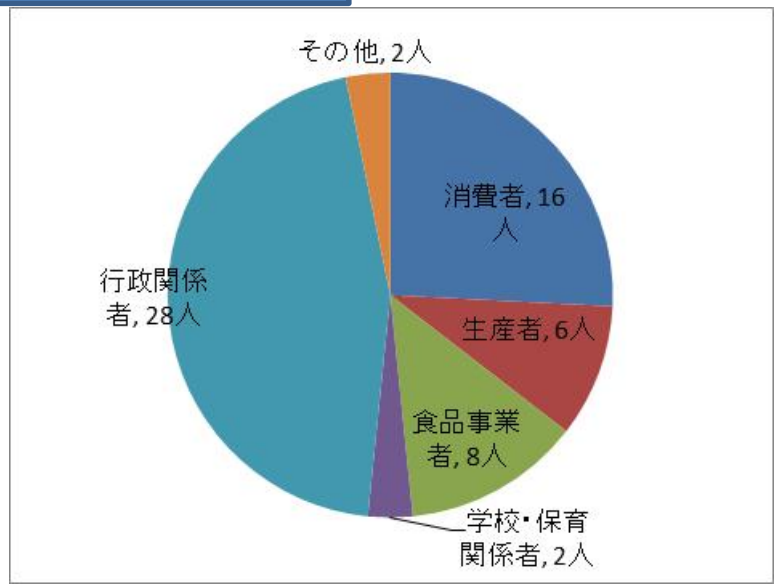
当社は厳格な衛生管理体制のもと、今後も安全安心な牛肉を消費者に届ける。行政には、消費者や生産、流通の現場が混乱しないよう一律的な取扱を求めたい。

◆県　岩井食の安全安心課長（行政）

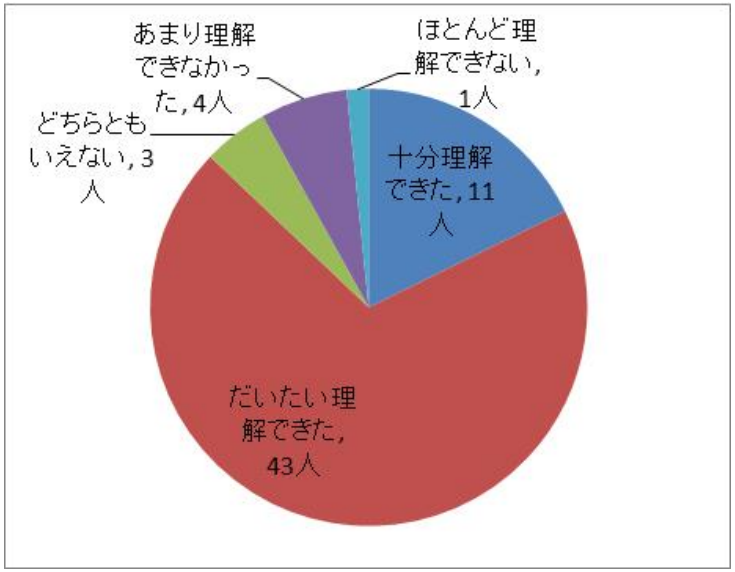
科学的評価に基づく今回の見直しは理解できるが、生産、流通の現場が混乱する恐れがあることから、本県は当面、全頭検査を継続する方向で検討している。食品安全委員会の二次答申の際は、他県の動向も見つつ、市場の混乱、風評被害などが発生しない状況と判断されれば、見直しを検討したい。

アンケート結果

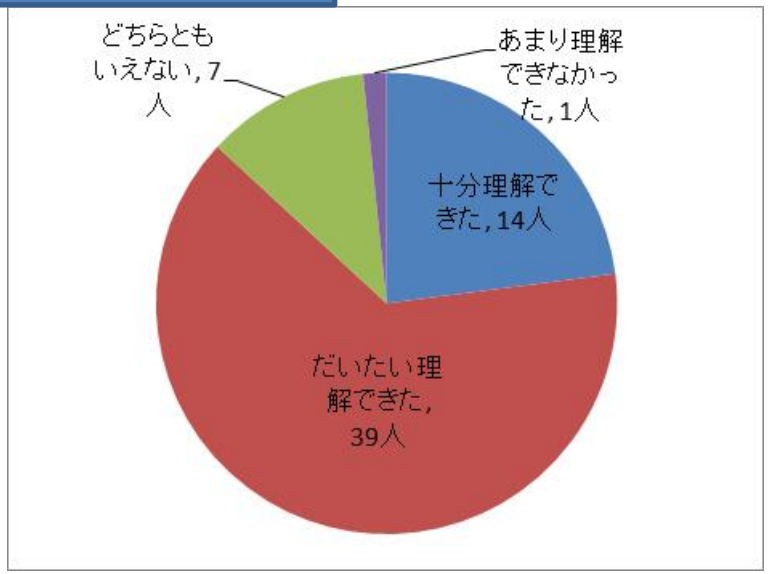
回答者の属性



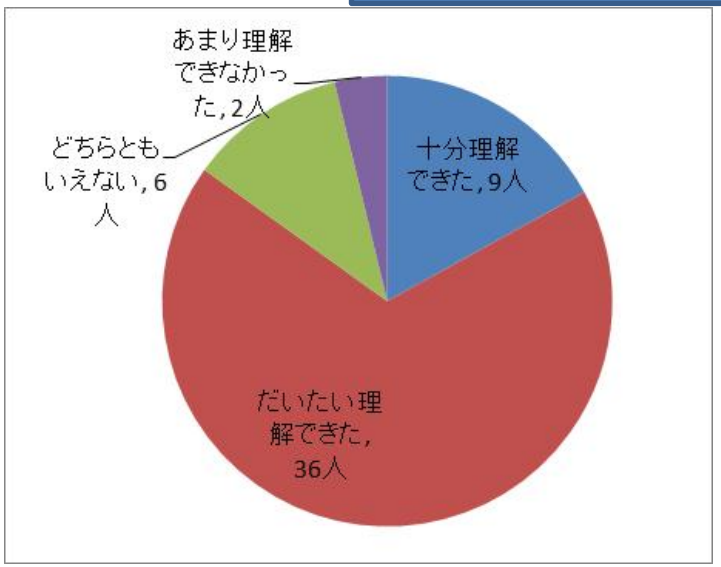
基調講演



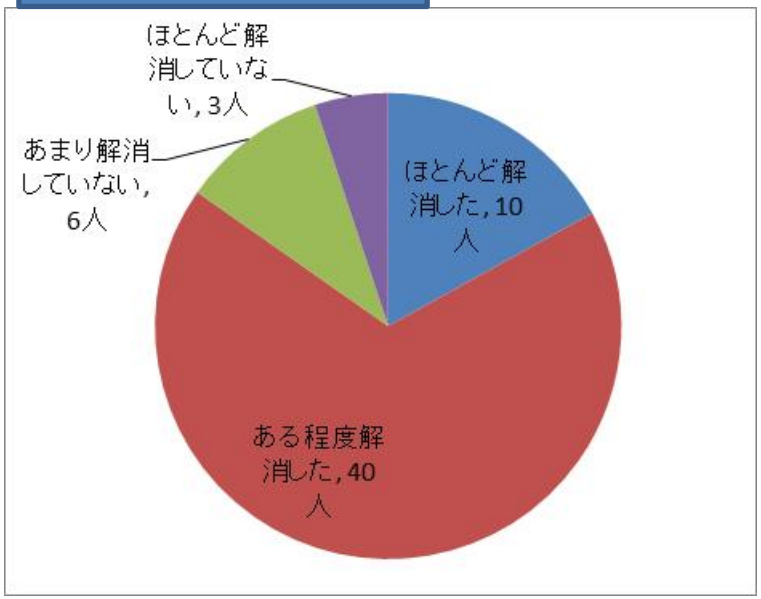
厚労省報告



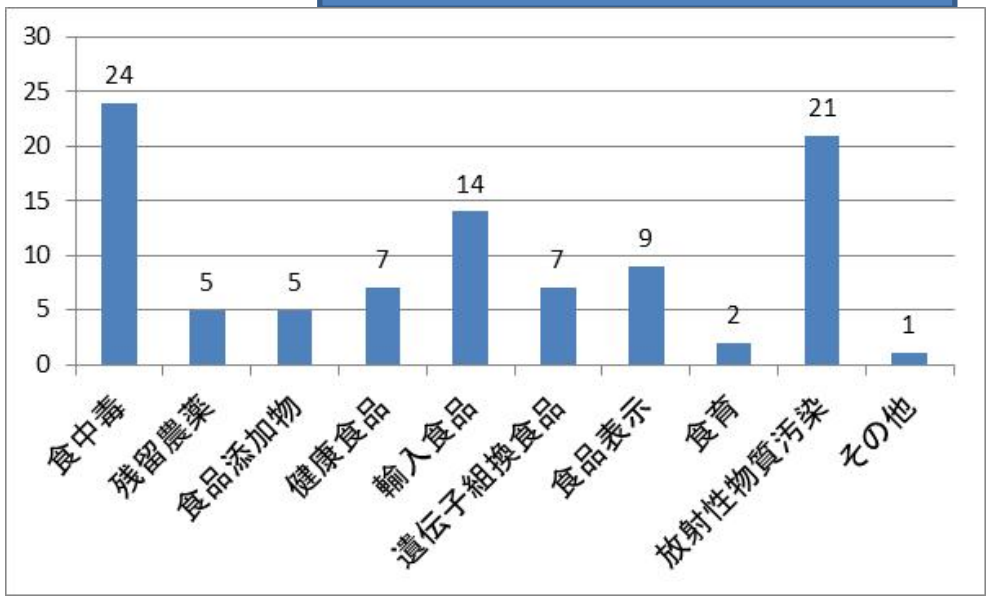
ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ



BSEに関する疑問



今後取上げてほしいテーマ



会場からの主なご意見

- ◆ 内容が専門家向けで難解。消費者にはもっと分かりやすい内容にすべき。（同旨3名）
- ◆ 新聞、テレビ等でもっと話題にすべきテーマだ。（同旨3名）
- ◆ 輸入規制緩和の根拠が不十分。
- ◆ 結論ありきの印象。もっと早い時期に開催すべき。（同旨2名）
- ◆「科学的知見」が「安心」につながりにくい理由について分析してほしい。
- ◆ BSEはもう終わり。食品衛生管理をきちんとやればよい。
- ◆ 脱線が多い。要点をつかんだ発言をすべき。（同旨3名）
- ◆ 生産者、消費者、流通、県と様々な立場の意見を聞くことができ、勉強になった。（同旨2名）
- ◆ 生産現場や、BSE解明に取り組む関係者の努力に感謝する。

～リスコミ開催を終えて～

シンポジウムの内容やいただいたご意見を、今後の県の施策に活かしてまいります。

また、アンケート結果を参考に、食の安全安心の確保に向けたリスクコミュニケーションの取組をより充実させてまいります。